

刑事訴訟実務の基礎Ⅱ

(Practices of Criminal ProcedureⅡ)

1 学期 金曜 7 時限	担当教員：外ノ池佳子（派遣検察官）
授業時間：75 分×10 回	研 究 室：
単 位 数：1 単位	オフィスアワー：
履修年次：3 年次	

授業の到達目標：

実務における刑事法の解釈・運用を学び、事実認定の基礎を習得する。法曹三者いずれの立場からでも、判例・実務を踏まえた的確な事案分析を行い、手続を実践することができるよう、問題発見能力、事実認定能力、文書表現能力を養うことを目標とする。

授業概要：

事前レジュメを配布し、各回の授業の目的、予習事項等を事前に呈示するので、自分なりに検討した上授業に臨むこと。授業では、実際の刑事事件記録に即した様式の教材（「事件記録教材」。開講後に配布する。）を利用し、法曹三者の役割と活動を具体的に学べるようにする。

なお、理解の定着を図り、また文章表現能力を養うため、期中に2回、時間内起案（起案時間30分程度）を行う。起案は添削して返却する。採点前の匿名化した答案を配布し、討議することがある。

評価方法：

筆記試験80％、平常点20％（起案10％、授業中の討論参加状況10％）

教科書：

- 基本書は特に指定しない。各自が現在使用しているものを利用されたい。
- 刑事訴訟法判例百選第8版（新刊刊行後は第9版）
- 法務総合研究所編集の事件記録教材（開講時に配布する）

参考書：

立花書房「令状請求の実際101問」司法研修所他編
判例時報社「増補・令状基本問題」（上・下）新関雅夫ほか著
判例タイムズ社「刑事実務証拠法」（第4版）石井一正著

授業計画：

第1回 ガイダンス、捜査手続（1）

捜査の端緒から検察官の終局処分までの流れを確認し、実務上の問題点の発見、検討を行う。

- 第2回 捜査手続（2）
事件記録教材10号第1分冊を使用し、逮捕・勾留の要件、補充捜査等実務上の諸問題を検討する。
- 第3回 起案Ⅰ
職務質問・所持品検査、任意捜査の限界をめぐる事例問題について、30分程度の即日起案と討論を行うことにより、問題の理解を深めるとともに、自分の理解を他者に伝える手法を学ぶ。
- 第4回 事実認定
事実認定の基本的な考え方と手法を学ぶ。題材として、事件記録教材第10号第1分冊、第2分冊を使用し、合わせて検察官の終局処分について学ぶ。
- 第5回 公判請求、公判準備等
公判請求、公判準備、第一回公判手続の流れと相互の関連性を学ぶ。
- 第6回 訴因の機能と特定
訴因の機能、訴因変更について、実務的観点から検討する。
- 第7回 起案Ⅱ
公判上の問題に関する事例について、30分程度の即日起案と討論を行い、問題点の理解を深める。
- 第8回 証拠法（1）
公判手続の流れと各根拠規定等を学ぶ。
立証趣旨、証拠能力等、証拠法の規定が実際の公判手続にどのように反映されるかを学ぶ。
- 第9回 証拠法（2）
同上
- 第10回 総復習